

# 堆肥センターだより

No.10



## Contents

家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の 促進に関する法律の完全施行にあたって .....	1
堆肥センターにおける堆肥流通の促進 .....	2
都道府県協議会情報 .....	4
堆肥の生産・販売に関するQ&A 編集後記 .....	6

## 家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の 促進に関する法律の完全施行にあたって

全国堆肥センター協議会 会長 本田 浩次

いよいよ11月1日から、家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律（以下、家畜排せつ物法という。）の管理基準が完全施行された。これまでの5年間の猶予期間、野積み、素掘りなどの不適切な管理を解消するために堆肥舎、汚水処理施設などの施設整備に、関係者あげて取り組んできた。また、畜産環境整備機構においては、今年、300億円余と大幅に増額された補助付きリース事業の期限内執行に全力をあげてきたところであり、今後、速やかに工事が進むものと思われる。しかし、私は正直なところ施設整備を進めることは大切だが、こうして整備された施設がうまく活用されるかどうか、心配している。

各都道府県においては、早速、管理状況の調査を始めるとのことだが、いよいよ法律が本格施行されるのだと身の引き締まる感がする。

家畜排せつ物法は、家畜排せつ物を適切に管理することと、家畜排せつ物を資源として有効に利

用することの二つの柱からなっている。そこで、堆肥の品質の向上を図り、堆肥のさまざまな需要に安定的に応え、利用をきちんと出来る方向にもっていくことが、今後の機構の大事な仕事になると考えている。

堆肥センターはその規模からみても、共同利用施設という性格からしても、地域において家畜排せつ物の管理と利用の両面でモデルとなる中核的な施設である。全国堆肥センター協議会が、堆肥センター相互の連携とネットワーク化を図り、ますます、その役割を十分に発揮することが期待される。特に、今年度実施している堆肥センターにおける堆肥生産流通実態調査は、堆肥の生産流通の実態を把握し、地域の耕畜連携を推進するとともに堆肥流通の促進を図ることにより、堆肥センターの経営改善を進める上でも極めて重要なことだと考えている。事業実施に当たって皆様のご協力を心からお願い致します。

# 堆肥センターにおける堆肥流通の促進

長年にわたり、耕畜連携の必要性が言われ続けているようですが、堆肥がたくさん流通するためには、耕種農家と畜産側が、お互いに理解を深めることが重要だと考えられます。堆肥センターは地域の耕種農家と畜産を結びつける中心的な役割が求められます。耕種農業において、持続的な農業ができるための土作りには、有機質としての堆肥もしくは腐植は欠かせないという認識がされています。

堆肥センターが堆肥を売り込む場合は、堆肥のよさだけでなく、堆肥のもつ性質を正しく理解してもらうことで、はじめて耕種農家が納得して、堆肥を利用してもらうことになるのでしょう。堆肥は化成肥料のように成分が一定ではありません。同じところで製造されている堆肥でも、水分含量が変われば、成分含量が変動します。これは欠点と言うよりは、堆肥のもつ性質だと考えてもらうことが重要だと思います。工業製品ではなく生き物と同じように、堆肥も成分が一定しません。

## 堆肥センターの役割

基本的なことですが、堆肥センターにおける堆肥流通がうまくいかなければ、堆肥センターの存在意義が危ぶまれます。堆肥センターは、他に収入はあまり見込めませんので、ふん尿の受け入れに対する収入や堆肥の販売収入で、運営しなければなりません。

製品としての堆肥が販売できないと収入が増えず、在庫をたくさんかかえることとなります。さらに、在庫をかかえれば二次的な影響として、畜産農家のふん尿の受け入れ数量を制限しなくてはいけなくなり、地域の畜産農家の営農の継続性にまで影響することとなります。

受け入れたふん尿で堆肥を製造し販売することが、主な堆肥センターの役割であり、毎日毎日、原料が運ばれてきます。堆肥センターは良質な堆肥を製造するとともに、堆肥を販売しなければなりません。

堆肥センターが堆肥を販売する上で優れている点は、多量に処理して堆肥を製造しているため、農家単位で処理するより製品のバラツキが少ないと考えられます。さらに、多量に製造するため、良質な堆肥が常時あります。耕種農家や一般消費者が堆肥を求めているときに、そこにあることは優位な点でもあります。畜産農家では、良質な堆肥がすべて販売されて、在庫に良質堆肥がない場合もあります。

## 堆肥を販売するには、利用するユーザー（耕種農家）の意見が大切になる

ユーザーである耕種農家に、いかに使ってもらえる

かが、流通の促進という面から見て大きいと思います。堆肥は、土壌改良材としても、有機質肥料としても、非常に価値のあるものと思われませんが、まだまだ、耕種農家の潜在的な需要はあり、堆肥の利用は増えると思われま

## 耕種農家と意見交換をしよう

みなさんは、耕種農家の声を聞いていますか？

堆肥を利用する耕種農家がどのような堆肥を求めているか、リサーチすることがとても重要であると思われます。現在、堆肥センターの堆肥を利用している耕種農家から、意見を聞いてみたらどうでしょうか。すでに地域で堆肥を有効活用している耕種農家は先生です。耕種農家にアドバイザーとしてお願いし、求めている堆肥が何であるのか、どのようにしたら堆肥を利用するのか、意見を求めてみましょう。堆肥センターでつくった堆肥がどのように良いのか、堆肥センター自ら情報収集しておくべきです。どのように利用しているか知ることによって、自信がもてるはずです。

さらに、耕種農家と意見交換ができる場をつくることも重要です。この場合、作物の栽培に関係している市町村・農協・普及センターの担当者といっしょに意見交換をして、求める堆肥とその利用方法について考えていくとよいでしょう。耕種農家の協力を得ながら、栽培試験を通じて、堆肥の有効利用方法を確立していけばいいでしょう。

厳しい条件や注文を言われるかもしれませんが、最終的に堆肥が売れるという目標のため、耕種農家を引き込めよう努力をしてみるべきです。こちらから耕種農家を引き込めば、耕種農家も次第に近づいて、良い方向がうまれてくるかもしれません。もしかしたら、堆肥を使いたいと思っている耕種農家がすぐ近くにいるかもしれません。

このように書いている自分も、畜産に関わる仕事ばかりをしてきて、耕種農家がどのような目的で堆肥を利用しているのか、あまり知る機会がありませんでした。しかし、岡山県良質堆きゅう肥共励会の審査員を含めて6戸の耕種農家に、堆肥の利用について、話を聞く機会がありました。その内容は、少しでも、供給すべき立場の畜産農家や堆肥センターへ役立てば良いと思い、岡山県畜産協会発行の「岡山畜産便り」、中央畜産会発行の「畜産会経営情報」へ掲載しました。

ホームページ「おかやま畜産ひろば」(<http://okayama.lin.go.jp>)にある、「堆肥を利用した耕種農家を訪ねて」でも掲載していますので、興

味があれば参考としてご覧ください。

### ●堆肥散布は高齢化傾向にある耕種農家に朗報●

耕種農家においても、高齢化は重要な問題になっています。年をとってくると堆肥のような重いものを、人手で運搬することはたいへんなことです。そこで、近年あらゆる堆肥センターで対応しているのが、堆肥散布サービスです。高齢の耕種農家や堆肥散布機械を所有していない耕種農家にも、堆肥散布サービスは、堆肥利用を促す重要なサービスです。

堆肥散布サービスをする上で注意すべき点は、基本は、堆肥センターのもつ労働力で対応できる範囲の地域内をベースに作業を組むことを優先し、地域の耕種農家の要望をうまくさばくことが大切です。天候にも左右されやすい散布サービスは、地域の農家を中心に考えて、余力がある場合、他の地域もエリアにした方が良いでしょう。

堆肥散布において、平地の圃場であれば問題ありませんが、これから検討していかねばいけないのは、散布機械が対応できない傾斜地や、小さな圃場への対応があげられるでしょう。

### ●顧客拡大作戦にサンプル配布はいかが？●

今まで堆肥を利用している耕種農家は、よほどのことがない限り利用し続けてくれます。利用促進のためのターゲットにしなければいけないのは、これまで利用していない耕種農家です。利用していない耕種農家をターゲットにした顧客拡大には、サンプル配布が効果的に思われます。

使いたいと思っているけど躊躇しているという耕種農家に、積極的にサンプル配布で堆肥を利用してもらいましょう。もし、堆肥センターに在庫としての堆肥が過剰になり、堆肥に余裕があれば、1区画分の堆肥ぐらゐは無料配布でいいのではないのでしょうか？在庫一掃という意味でも、新規購買者開拓という意味でも効果的だと考えられます。

ただ、サンプル配布に関して約束事を決めておいた方がよいでしょう。それは、サンプル配布は1回限りであるとか、配布した農家はアンケートに答えてもらって名簿として記録しておくとか、利用してくれている耕種農家が不平不満が起きないように配慮は必要でしょう。

サンプル利用してくれた耕種農家に対して、次年度以降も積極的な購入の呼びかけを推進しましょう。ただし、サンプル配布した耕種農家すべてが、購入してくれるとは限りませんので、そこは歩留まりは少ないと思って割り切っていくことが大切です。

一般的な商品の購買傾向というものは、最初はゆっくりとした売れ行きですが、知名度が上がるとともに爆発的に売れ始めます。サンプル配布で裾野を広げていき、知名度を高めていきましょう。そうして、利

用してくれる耕種農家が1戸1戸増えていき、利用したときの状況が良ければ、評判が広がることでしょう。

### ●どこで販売しているか情報を流していますか？●

みなさんのところでは、堆肥センターの堆肥が、どこで販売されているか、情報を流していますか？堆肥センターは地方にあるケースが多いので、消費者が、ちょっと堆肥を買いに行こうかと思っても、場所が分からなければホームセンター等にお客さんを取られてしまうこととなります。

さらに、堆肥を販売する競争相手は多くなる一方です。畜産農家も堆肥舎を整備して良い堆肥を製造していますし、他の地域の堆肥センター、はたまた一般の業者まで堆肥を販売しています。市場には良質な堆肥が過剰に供給され、ライバルもたくさんいますので、堆肥の販売競争を勝ち抜くには、販売している場所の情報など、知名度を上げることは重要な手段です。

### ●農協や普及センターと協力していますか？●

耕種農家のつくる作物の主たる販売ルートは農協を通じた販売です。そのため、農協は作物の営農指導まで行っています。その作物の栽培指導に堆肥の利用があるかどうかによって、堆肥の利用量が格段に違います。

堆肥を利用した栽培指針があれば、何の問題もなく堆肥は利用され続けられるでしょう。しかし、栽培指針に堆肥の利用がうたわれていないケースでは、おのずと地域の堆肥の利用はすすみません。

そこで、農協や普及センターと協力して、堆肥の有効性を理解してもらい、10aあたりに多くの堆肥を一度に利用しなくてもよいので、少しずつでも堆肥を投入するような栽培指針ができないものか、検討していく必要があるでしょう。農協や普及センターからは、堆肥の肥料成分が高いとか、肥効がよく分からないとか、EC濃度が高いからとか、言われるかもしれませんが、堆肥は腐植としての有効性を持っていますし、土壌改良材として物理性や生物性の改善は疑う余地はないと思います。基本的に投入量が多すぎなければ、大きな問題は起きないと考えられます。

欠点のないものはありえないので、堆肥の良いところ、悪いところをふまえつつ、痩せつつある土地をよくするため利用してもらおうようにしましょう。このような堆肥の理解を深めていくための積極的な働きかけは欠かせませんので、少しでも堆肥が販売できるように、耕種農家を巻き込む努力をしてみてください。

社団法人岡山県畜産協会  
経営指導部 大村昌治郎

## 鳥取県堆肥センター協議会の活動について

### はじめに

「青く澄み渡る日本海、緑豊かな山々。」鳥取県は豊かな自然に囲まれています。

本県は、日本列島本島の西端に位置する中国地方の北東部に位置し、東西約120km、南北約20～50kmと、東西にやや細長い県です。

北は日本海に面し、鳥取砂丘をはじめとする白砂青松の海岸線が続き、南には、中国地方の最高峰・大山をはじめ、中国山地の山々が連なっています。

山地の多い地形ながら、三つの河川の流域には、平野が形成され都市として発達しています。

気候は比較的で温暖で、春から秋は好天が多く、冬には降雪もあるなど、四季の移り変わりは鮮やかです。

本県の農業は、米、野菜、果実、畜産がバランスよく営まれ、農業県として、新鮮で良質な農産物を各地へ供給しています。

特に、本県特産の二十世紀梨は、先人たちの努力により、日本一の産地が形成され、海外にも広く輸出されています。

また、海岸線に広がる砂丘地帯では、ラッキョウ、長イモ、白ネギなどが栽培され、大山山麓の肥沃な黒ぼく地帯では、スイカをはじめ、ブロッコリーなどの野菜が栽培されるなど、地域の特性を生かした農業が行われています。

林業では、古くからの林業地域を中心に、県土の70%を占める森林で良質なスギが産出され、高級な建材や家具の材料に利用されています。

鳥取和牛は、江戸時代からたゆまぬ改良が続けられてきた風味が自慢の贅沢な逸品の一つです。平成19年には全国和牛能力共進会鳥取県大会が開催されます。

平成15年の畜産粗生産額は、21,770百万円となっています。畜産種別では、肉用牛2,950百万円、乳用牛6,150百万円、豚5,090百万円、鶏7,550百万円、その他30百万円となっています。

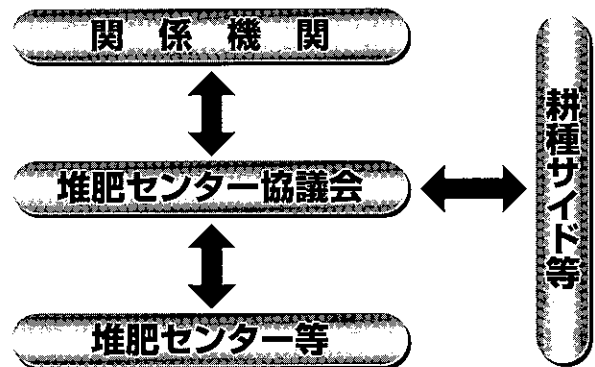
平成15年の畜種別農家戸数は、肉用牛730戸、乳用牛280戸、豚60戸、ブロイラー68戸、採卵鶏30戸となっています。

畜種別飼養頭羽数は、肉用牛22,600頭、乳用牛11,200頭、豚73,700頭、ブロイラー3,048千羽、採卵鶏674千羽となっています。

### 1 県協議会の体制

鳥取県堆肥センター協議会は、畜産と耕種の連携の下で家畜排せつ物による良質たい肥の生産及び利用の促進を図り、堆肥センターの機能強化と地力の維持増進並びに農畜産業の安定を目的として、平成14年に県内の堆肥センター、共同利用施設、大規模畜産農家など並びに本協議会の目的に賛同する団体での設立が、活動の始まりです。

県協議会の体制フローは以下のとおり。



### 2 協議会の活動内容は以下のとおりです。

#### (1) 情報の収集・提供に関すること

堆肥センターのアンケート調査を行ったり、家畜は排せつ物の適正処理、堆肥化技術、利用促進のための情報を提供しています。

#### (2) たい肥の利用情報等に関すること

#### (3) 良質たい肥生産技術等の研修に関すること

良質な堆肥を生産するために、土づくり研修会を開催または、堆肥共励会に参加をおこなっています。

#### (4) たい肥生産コスト低減に関すること

#### (5) たい肥センター等に対する指導・助言

#### (6) その他目的を達成するためのに必要な事業

### おわりに

協議会の活動としてもっと活発さが必要なと思う日々です。

堆肥センターは、畜産農家のふん尿処理施設費の負担軽減、処理作業の軽減に一役かっています。また、耕畜連携による環境保全型農業推進の中心になる施設でもあります。

今後は、県関係機関、市町村、JAと連携し、良質堆肥の利用促進を図って行きたいと思えます。

## 堆肥センターを訪ねて

本協議会の構成員の流通販売でがんばっている一つを紹介したいと思います。

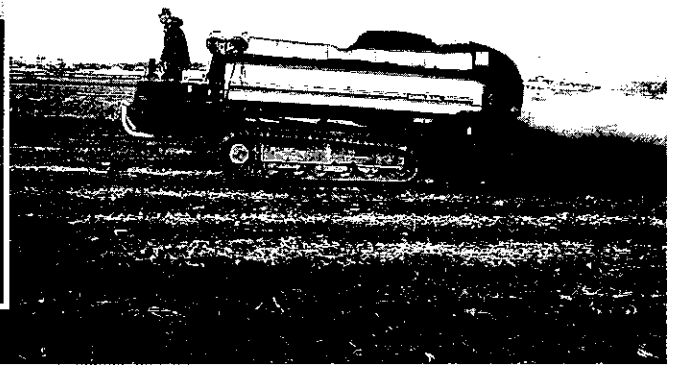


「東伯町農業協同組合堆肥センター」

## 特長

糞尿処理の特長としては、以下のとおりです。

- ・大規模な農協畜産団地の糞尿を処理
- ・牛、豚、鶏の糞尿を一定割合混合
- ・耕種農家のニーズにあった体制生産
- ・脱臭装置などを設置した臭気対策



## 1 地域の概要

鳥取県のほぼ中央に位置する、県内有数の農業地帯である東伯町（現在は、市町村合併で「琴浦町」）は、稲作、野菜、果樹、畜産と多様な経営形態をとっています。

それぞれが単一経営として専門化している点が大きな特徴です。

畜産は単一経営または畜産を主とする準単一複合経営が多く、堆肥と粗飼料の生産を通じて、畜産と耕種農業の有機的な結びつきもあり、地域複合農業が形成されています。

## 2 経営の概要

昭和59年に農業機械総合センターを設立し、これが平成3年に「農業ヘルパーセンター」と「みどり有機工場」の2部門に分割され、6年には農協の機構改革に伴い、農業サービス部門の拡充強化を図るため「ファームサービス部」として昇格独立した。（現在は、みどり有機課）この事業部の基本方針は、以下のとおりです。

- (1) 町農業の特長である畜産の振興と、地域資源（畜産糞尿）の循環、活用を図るための堆肥製造や稲わら回収作業の実施
- (2) 堆肥散布とその供給、深耕による土づくり作業の受託と実施
- (3) 水稻、野菜および花の共同育苗による優良苗、優良品種の供給
- (4) 水稻作業の受委託の幹旋・仲介（耕起、田植え、コンバイン収穫、カントリーエレベーターへの搬入）と受託

堆肥の利用推進については、(1)地域を巻き込んだ利用促進、(2)堆肥の需給バランス、(3)利用者のニーズに対応を基本として進められています。

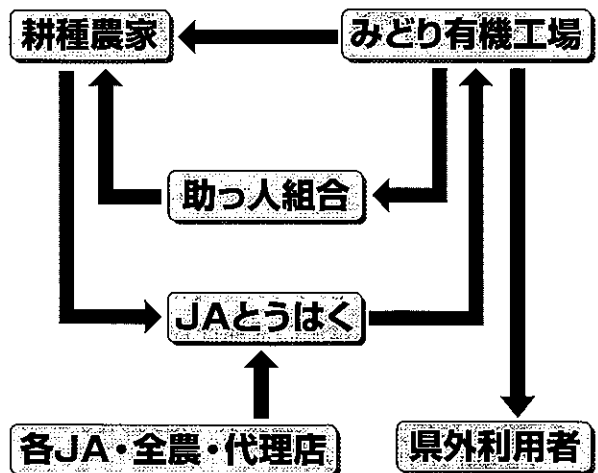
そのなかでも大きな特徴の一つには、「助っ人組合」の存在です。

「助っ人組合」は、地域農業の担い手としての認定農業者や機械利用集団を町全体で組織化することを目的としています。

活動内容は、堆肥散布、耕耘、代かき、田植え、収穫（コンバイン）、防除、機械移植（白ネギ、プロッコリー）、土壌改良、稲わら回収となっています。

今後も「助っ人組合」と相互の連携などの強化で良質堆肥を利用した土づくりが進められていきます。

## 助っ人組合の活動体制



（社団法人鳥取県畜産推進機構支援業務部主任  
佐藤功憲）

# 堆肥の生産・販売に関するQ&A

**Q** 発酵槽底部からの送風を行っています  
すが送風機の運転音がひどいので困  
っています。なにか良い防音対策はないでしょうか？

**A** 次のような対策がありますので、実施  
できそうな対策を試みてください。

- (1) 運転音大きい送風機には付属品としてサイレンサーや防音ボックスが必ず用意されていますので、送風機のメーカーや代理店に問い合わせで設置すると良いでしょう。
- (2) 困るほど運転音の大きい送風機は図1に示すような高風圧型（静圧1,000mm水柱程度）と思われませんが、発酵槽底部からの送風は図2に示すような低風圧型（静圧200mm水柱程度）の送風機でも堆肥化発酵に対する機能

は変わりませんので、運転音の静かな低風圧型送風機に代えると良いでしょう。低風圧型は同じモーターkwで高風圧型の数倍の送風量となりますので電気代を大幅に節約することもできます。

- (3) 糞や漏汁、堆肥による送風配管の詰まり、発酵槽底部の岩盤状の糞、送風量不足や不適正な配管法、比重調整不足などが原因で送風効果が発揮されていない施設も多く見られます。

このような場合は送風が無駄になっていきますので、試しに送風を停止して発酵機能があまり変わらないようであれば、送風停止が最高の防音対策になると同時に大きな節電効果も期待されます。

((財)畜産環境整備機構 審議役 本多勝男)

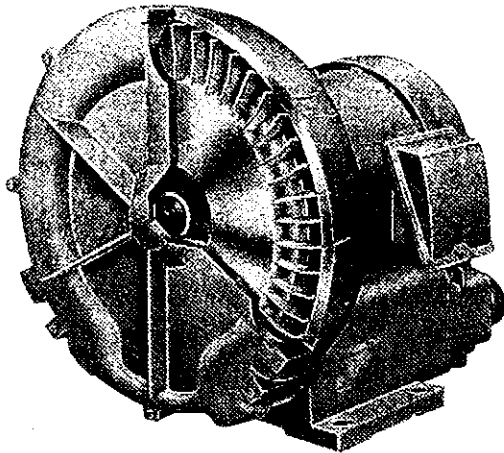


図1 高風圧型送風機

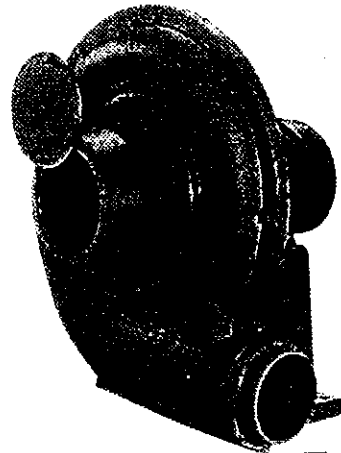


図2 低風圧型送風機

## 編集後記

- ◆巻頭言は、当協会の会長である財団法人畜産環境整備機構本田浩次理事長から、家畜排せつ物法の完全施行に当たって、ご意見等を寄稿していただきました。
- ◆社団法人岡山県畜産協会経営指導部の大村昌治郎様から、堆肥センターの重要かつ緊急に解決したい課題である堆肥の流通促進についての、ご意見等を寄稿していただきました。
- ◆鳥取県の堆肥センター協議会の活動状況について寄稿いただきました。

- ◆堆肥センターだよりのQ&Aは、大変好評で本多審議役が各問に分り易くお答をしております。

第一線でご活躍の皆様の実践に則したご質問をいただければ、非常に有意義なQ&Aになるとともに、ご活躍の皆様のお役に立てるものと思います。是非皆様の疑問、ご質問を下記あてどしどしお寄せください。

FAX 03-3459-6315  
E-mail [leio@group.lin.go.jp](mailto:leio@group.lin.go.jp)

(全国堆肥センター協議会事務局)